

中国語の芸術系科目における教室談話についての一考察

— 語彙を中心に

An analysis of classroom discourse in Chinese Art and Design teaching

— with a focus on vocabulary

● 山田真一／富山大学芸術文化学部

YAMADA Shinichi / Faculty of Art and Design, University of Toyama

● Key Words: 中国語, 芸術系科目, 教室談話, 课堂话语分析

要旨

从日本大学生汉语学习的动机调查来看, 艺术学系的学生的学习动机最强。为了更进一步地强化该学生群的汉语学习动机, 需要进行以学习者为主体的汉语教学、编写以学习者为主体的汉语教材。为此我们在几所中国艺术大学的艺术课上搜集了一些课堂话语的录音材料。基于此材料, 本文探讨艺术课堂上出现的词汇特征以及其汉语教学上的应用。

1. 研究の背景

平成23～26年度の科研事業「新しい言語教育観に基づいた複数の外国語教育で利用できる共通言語教育枠の総合研究」(代表: 西山教行)の一貫として2012年に実施された全国アンケート調査に基づいて、中国語学習者の学習動機づけについて考察した論文^{*1}によると、学部系統別の学習動機づけでは、芸術系が「内発的動機づけ」、「同一視的調整」、「取り入れ的調整」の3因子^{*2}ともに高く、学習動機づけの強弱で学系を並べると強い順に、芸術系>人文科学系、外国語系、教育学系>医療看護系、社会科学系>自然科学系の順になる。上記の調査結果から、芸術系の学生は中国語学習に対するモチベーションが高いので学習動機づけを更に強める必要はない、と結論づけることはできない。学習者主体の学習観に立った場合、たとえ大学入学後にはじめて習う初修外国語であっても、初級段階から学習者が専門課程で学ぶ専門教育と連動した内容の教材を使用することで、言語学習の動機づけがより一層強まるであろう。

近年、多くの大学において卒業要件単位数に占める初修外国語の単位数は削減され、学部によっては初修外国語を卒業要件単位に含めない場合もあり、その傾向は今後ますます加速されそうな勢いである。「国際化」といえばすぐさま、実用的な英語の運用能力の必要性を重視するという短絡的な考えは、人間の諸活動における言語の役割を見えなくさせてしまうことになりかねない。外国語を学ぶ意義は、「外国語をからだの中に通し、外国語のしくみの中で考え、新しい価値の地平を切り開くこ

とにある」^{*3}という鷲田清一氏のことばに集約されている。「国際化」とは人間の多様性を知り、彼我の差異を体感しながらも、協働を通して新しい価値を創造すること—それを実現する能力をここでは「対話能力」と呼んでおく—を志向するものであろう。「国際化」や「グローバルイゼーション」が叫ばれる中、大学教育における初修外国語教育は、「対話能力の育成」を志向するようパラダイムの転換が迫られている。本稿はこうした現状を背景に、大学における初修外国語のひとつである中国語を、学習者主体の学習観の上に立った教育にしていくための教材開発に資する基礎的、準備的な調査分析と位置付ける。

本稿の目的は、中国語による芸術系の専門科目における教室談話の語彙的特徴を明らかにすることにある。後述するように、中国語教育においては初級段階での学習語彙が選定されているが、それらと本調査から得られた語彙との比較を通して、専門教育との連動という観点から考察を加える。

2. 談話資料と分析方法

本稿で用いた教室談話資料は、2015年9月に中国の芸術系大学・学部において、芸術系科目の授業の内容を録音し文字化したもので、具体的な授業科目名、大学・学部名、収集したデータの文字数(句読点は省く)は以下の通りである。

表1

授業科目名:()内は日本語訳	大学・学部名	文字数
“美学”(美学)	清華大学美術学院	13,377
“广告设计”(広告デザイン)	成都大学芸術学院	17,014
“数字绘画”(デジタル絵画)	成都大学芸術学院	10,911
“临摹”(模写)	西安美術学院	13,486
		計 54,788

なお、後に詳述するが、授業科目ごとの語彙の特徴を分析する際、「広告デザイン」は教師による講義である前半部分と、学生によるプレゼンテーションである後半

部分の2つに分けた。その理由は、授業の前半部分と後半部分とは談話構造が異なり、分析に際しては両者を分けた方がよいと考えたからである。芸術系学部の学生に限らず、「プレゼンテーション能力」は、学習者主体の言語教育という観点からも重視されるべきものであり、教材作成の際にも有用な資料となるからである。したがって教室談話の語彙リストは、「美学」・「広告デザイン（講義）」・「広告デザイン（プレゼンテーション）」・「デジタル絵画」・「模写」の5つからなる。このうち「模写」は、大学付設の美術館において、収蔵品である国画の模写を行うという授業で、学生が作品を模写する作業が授業の大半の時間を占め、その間教師はたまに個別に学生に対し二言三言指導するという授業形態であり、談話資料としての採集は困難であった。そこで、この授業においては担当教師に収蔵作品を解説してもらい、その内容を録音し文字化したものを談話資料とした。これは厳密には教室談話とは言えないが、作品解説において使用される語彙を調査することは、ギャラリー等において、自作品の説明を行うという授業がある芸術系学生を想定した教材作成において有用となる談話資料と判断し考察対象に加えた。

収集した談話資料は、テキスト型データ分析ソフトKH Coderを使い、計量的な処理を行った。^{*4}後に示す各教室談話の語彙リストはKH Coderで処理した結果そのままではなく、必要に応じて修正を加えている。^{*5}

3. 分析結果と考察方法

まず、各授業における教室談話において出現した語彙リスト（上位20語）を示し、授業ごとに出現語彙の特

徴について考察を進め、最後に芸術系授業全体を通して観察される教室談話の語彙的特徴について論じる。語彙の特徴を考察する際には、中国語の学習語彙をランクごとに示した『汉语水平考试词汇大纲』^{*6}（以下HSKと称す）と比較しながら行う。HSKは中国での留学生に対する中国語教育における学習語彙のめやすを定めたもので、甲ランク1000語が最常用語、乙ランク2000語が常用語、丙ランク2000語が常用語に次ぐもの、丁ランク3000語が通用語とされ、総計約8000語について語ごとのランクが示されている。初級レベルで甲・乙ランクの3000語、中級レベルで甲・乙・丙ランクの5000語、上級レベルで甲・乙・丙ランクの8000語を学習し身につけることがめやすとされる。^{*7}ただし、日本における中国語教育は学習環境や学習時間が中国とは異なる上、HSKは留学生に対する中国語教育を対象としているため、漢字・漢語についての知識をあらかじめ有している日本語母語話者の中国語教育においてHSKのランクづけをそのまま厳密に適用することには問題がある。

表2～7における「Noun」は名詞、「Proper Noun」は固有名詞、「Adj」は形容詞（句）の述語用法、「JJ」は形容詞（句）の連体修飾語用法、「Adv」は副詞、「Verb」は動詞であることを表す。表中の品詞名は、たとえば“怎样”が「Adj」と「JJ」に、“怎么样”が「Adj」として処理されるなど、通常の品詞分類と一致しないものがあるが、本稿の分析において影響がないものはそのままにしてある。

3.1 「美学」の授業に現れる語彙（表2）

表中の各語の後に示した数字は、教室談話において当

表2

	Noun	ProperNoun	Adj	JJ	Adv	Verb					
美学	105	中国	14	好	40	这样	26	就	174	去	128
时候	83	德国	11	对	20	审美	20	不	162	要	111
艺术	77	鲍姆加登	10	大	17	不同	16	那么	123	可以	74
东西	63	黑格尔	9	准确	14	大	10	然后	86	画	73
绘画	54	苏州	8	清晰	13	传统	9	就是	82	开始	71
哲学	51	亚里士多德	8	一样	11	黑	9	再	62	看	52
里面	49	康德	7	深	9	基本	8	也	54	做	45
地方	48	凯维奇	6	重要	9	什么样	7	很	54	来	39
人	46	阿瑟-c-丹托	5	愉悦	8	小	7	一下	50	会	38
问题	39	美国	4	近	6	专门	6	都	39	到	34
上面	38	克罗齐	4	快乐	5	黑白	6	所以	38	出来	33
书	38	徐斌	3	简单	5	一定	5	但是	36	叫	27
细节	37	英国	3	这样	5	明暗	5	先	31	研究	27
结构	35	金泽	3	远	5	深色	5	其实	29	能	26
轮廓	35	罗兰・巴特	2	亮	4	现代	5	非常	29	写	25
部分	33	塔塔尔	2	多	4	规范性	5	越来越	27	讲	25
颜色	30	意大利	2	怎么样	4	重要	5	怎么	24	进行	25
画笔	27	日本	2	模糊	4	中等	4	一点	23	讨论	24
方式	23	王朔	2	白	4	古典	4	最	22	让	24
感觉	22	维也纳	2	稀	4	感性	4	稍微	22	说	24

該語句が出現した回数を示す。

美学の教室談話において特徴的なことは、固有名詞が多く現れることである。とりわけ美学の父と称されるバウムガルテン（“鮑姆加登”）やヘーゲル（“黑格爾”）、アリストテレス（“亞里士多德”）といった哲学者の名前が多く現れていることが特徴的である。それに対して動詞については、上位20語の語彙はいずれもHSKで甲、乙ランクの語である。形容詞（連体修飾用法）については、“审美”（美を理解する）（丁ランク）が20回も現れ、形容詞（述語用法）では“清晰”（音や形がはっきりしている）（丙ランク）が現れる。副詞では“其实”（実は）（丙ランク）が多く出現していることが特徴的である。

3.2 「広告デザイン（講義）」の授業に現れる語彙（表3）

第2章でも述べた通り、「広告デザイン」の授業は前半の50分間は教師が講義をし、後半の50分間は事前に出された課題に対し学生が1グループ4～5名で取り組み、調査分析した結果をパワーポイントで提示しながらプレゼンテーションを行った後、主に学生間で質疑応答や意見交換を行うというものである。授業の前半と後半で談話構造が大きく異なるため、談話資料としては「広告デザイン（講義）」と「広告デザイン（プレゼンテーション）」の2つに分けて分析する。

名詞では“广告”（廣告）（乙ランク），“创意”（創意工夫）（ランク外），“策划”（企画）（丁ランク），“品牌”（ブランド）（ランク外），“媒介”（メディア）（丁ランク）が多く出現する。“策划”は動詞としても出現し名詞用法と合わせると32回出現する。これらの語彙は「広告デ

ザイン」という授業における特徴語と考えられる。副詞で“其实”が多く現れる点は「美学」の授業と同様である。

3.3 「広告デザイン（プレゼンテーション）」の授業に現れる語彙（表4）

この教室談話に現れる語彙は、プレゼンテーションのテーマと関連があるので、特定の名詞“微信”（WeChat）^{*8}や“餐厅”（レストラン）（乙ランク）が多く現れる。名詞の高出現語をながめると、プレゼンテーションのテーマについてもある程度推測できる。この教室談話で注目したいのは、副詞では“然后”（それから）（甲ランク），“其实”、動詞では“可以”（～してよい：～してはどうか）（甲ランク），“觉得”（感じる・思う）（甲ランク）が多く出現していることである。プレゼンテーションは通常順序立てて説明するので、事の順序を示す“然后”が多く現れることは当然であろう。他の教室談話と同様に“可以”の出現回数が多いが、“可以”の意味が異なる。この談話においては、“可以”は許可を求める用法としてではなく、“你们可以考虑再深入一点”（あなた方はもう少し深く考えてはどうでしょう）の例のように、相手に婉曲的にアドバイスをするときの用法として使われている。この“可以”はプレゼンテーションを行った人に対してプレゼンテーションの内容について意見を述べる際の常用語といえる。なお、「広告デザイン（講義）」においても、“可以”は多く出現するが、その多くは“我们可以感觉到我们自己的一个设计当中，你可以学着自己的品牌”（私たちは自分のデザインの中に、自分のブランドを感じ取り学ぶことができる）のような「可

表3

Noun	ProperNoun	Adj	JJ	Adv	Verb
广告	203 中国	9 好	20 这样	83 就	70 去
创意	63 俄罗斯	4 简单	20 绝对	31 当然	58 包括
方式	39 巴西	4 多	6 什么样	7 其实	57 可以
设计	30 成都	4 常见	4 不同	6 就是	56 进行
表达	27 无印良品	3 一样	3 一定	5 也	52 做
产品	24 日本	3 不一样	3 互动	5 不	42 会
同学	24 米兰	3 不同	3 平面	5 然后	36 看到
时候	22 LOGO	2 复杂	3 新兴	5 都	29 要
品牌	21 上海	2 夸张	3 独特	5 还	27 需要
原则	17 布鲁塞尔	2 有名	3 简单	5 但是	26 知道
媒介	17 悉尼	2 这样	3 最终	4 比如	23 表达
形式	17 曼谷	2 重要	3 经典	4 比较	18 讲
城市	16 玛雅	2 不断	2 传统	3 这样	18 看
人	15 豫	2 充分	2 好	3 非常	18 策划
后面	14 香港	2 多彩	2 完整	3 就是说	17 应该
类	14 黄英	2 大	2 新	3 一下	16 能
策划	13 LG	1 完美	2 一般	2 一定	14 出现
视觉	13 TV	1 广	2 分类	2 才	14 说
里面	13 伊斯坦布尔	1 快	2 大	2 比如说	13 达到
摄影	12 伏特加	1 清楚	2 实际	2 更	12 到

表4

Noun	ProperNoun	Adj	JJ	Adv	Verb
餐厅	17 微信	30 好	13 即食	8 然后	22 可以
社交	16 成都	5 一样	4 这样	3 就	21 做
信息	14 QQ	4 新鲜	3 不同	2 不	19 去
广告	13 上海	2 有用	3 主要	2 也	17 会
朋友	13 冯策	4 简洁	3 另外	2 就是	13 说
功能	10 北京	2 这样	3 大	2 很	13 觉得
人群	8 孔子	2 健康	2 小	2 都	13 看到
即食	8 杭州	2 多	2 微	2 但是	9 包括
方面	8 中国	1 大	2 无用	2 还	9 出来
时候	8 刘一亚	1 对	2 现有	2 非常	9 吃
软件	8 刘易阳	1 欢心	2 精致	2 一下	7 想到
东西	7 成大	1 不错	1 绿色	2 其实	7 出现
人	7 成都市	1 主要	1 假	1 更	7 到
公众	7 春秋	1 假	1 全新	1 没有	7 提供
圈	7 王亚新	1 先进	1 共同	1 比较	6 要
优势	6 田子怡	1 反感	1 关键	1 为什么	5 让
号	6 苏豪	1 弱	1 动态	1 主要	5 选择
对手	6 黄英	1 强	1 即裁	1 也就是	5 了解
竞争	6	强劲	1 原有	1 再	5 加
艺术	6	彻底	1 固定	1 所以	5 开
问卷	6	快捷	1 大型	1 最	5 想

表5

Noun	ProperNoun	Adj	JJ	Adv	Verb
时候	54 photoshop	6 好	32 这样	11 就	100 去
绘画	53 A4	1 大	16 不同	10 不	96 要
地方	44 CTL	1 对	15 黑	9 然后	76 画
东西	39 ESC	1 准确	14 大	8 再	59 开始
上面	37 意大利	1 清晰	12 黑白	6 一下	48 可以
细节	37	深	8 小	5 就是	30 看
轮廓	35	简单	5 明暗	5 先	28 做
结构	34	近	5 深色	5 越来越	26 出来
颜色	30	这样	5 一定	4 很	25 来
画笔	27	一样	4 中等	4 稍微	21 进行
部分	25	亮	4 中性	3 一点	20 到
方式	20	模糊	4 什么样	3 最	19 让
里面	20	白	4 基本	3 其实	18 会
背景	19	稀	4 深	3 一定	16 放大
画	18	远	4 画的	3 太	16 准备
画面	18	重要	4 不对的	2 接下来	16 选择
大小	16	一致	3 主观性	2 这样	15 修改
数字	16	多	3 单色	2 都	15 看见
调子	14	快捷	3 多边形	2 也	14 下去
图片	13	怎么样	3 平滑	2 为什么	12 切换

能を表す」表現として用いられる。

3.4 「デジタル絵画」の授業に現れる語彙 (表5)

デジタル絵画の授業は前半と後半に分かれる。前半は教師がはじめphotoshopで作成したビーナスの胸像を学生卓(二人掛け)のセンターモニターに映しながらソフト操作の説明と、描画の際のポイントを50分間講義する。その間学生は教師の説明を聞きながら、教師の

指示に合わせて自分のPC上でビーナスの胸像を描画する。5分間の休憩時間をはさんで、後半は学生が個々人でphotoshopを操作しながらビーナスの胸像を描画し、教師は個々の学生に対して描画上の注意点やソフトの操作方法を指導するという授業形態である。

授業の前半は描画ソフト(photoshop)の操作説明が中心で、固有名詞のCTL、ESCはキーボード上のキーの名称を、A4は描画のサイズを表している。名詞では

“细节”(細部)(丁ランク)、“轮廓”(輪廓)(乙ランク)、“结构”(構造)(乙ランク)といった形に関する語彙が多いことが観察される。副詞では、“其实”のほか、操作手順を説明する際の表現“接下来”(続いて…)(この“接”の用法は丁ランク)がこの教室談話に特徴的な語彙である。なお動詞“去”が112回出現するが、ここでは「行く」という意味ではなく、“你选择去背景的这个时候”(背景を消去する<という操作>を選ぶときには)のように、「取り除く」・「消す」という意味で使われることが多い。

なお、この用法の“去”はHSKでは丙ランクとなっている。また、“用一种基础的方式去绘画”(基本的な方法で描く)の例のように、動作に積極的に取り掛かることを表す副詞的な用法として“去”が使われる例も少なくないのは、操作手順を説明しながら学生に動作を促すという教師の意図が反映されているからといえる。

3.5 「模写」(収蔵作品の解説)の授業に現れる語彙(表6)

第2章で述べたように、この談話は厳密には教室談話

表6

Noun	ProperNoun	Adj	JJ	Adv	Verb
时候	46 中国	42 大	24 大	15 就	128 会
艺术	35 唐代	20 好	17 这样	12 很	94 要
人	32 日本	10 一样	16 传统	10 那么	82 讲
画	31 敦煌	7 对	9 不同	9 不	66 看
线	31 汉代	7 这样	8 高	5 就是	66 能
线条	31 印度	5 美	8 主要	4 也	45 去
时期	27 唐	5 典型	7 基本	4 都	43 到
过程	26 文成	4 棒	6 古典	3 但是	35 叫
人物	25 秦汉	4 流畅	5 什么样	2 所以	34 可以
作品	25 陕西	4 重要	5 公共	2 主要	32 做
绘画	25 颜真卿	4 不同	4 原	2 其实	32 开始
东西	23 北京	3 多	4 原始	2 非常	29 看到
壁画	20 宋	3 早	4 古	2 比较	26 要求
学生	20 宋代	3 有名	4 好	2 然后	17 包括
马	17 故宫	3 熟练	4 新	2 最	16 画
课	16 榆林	3 简单	4 有名	2 已经	15 表达
问题	16 汉	3 丰富	3 正常	2 还	15 用
场景	15 秦	3 优美	3 熟	2 在	13 需要
技法	14 虢国	3 明显	3 现代	2 刚	12 来
课程	13 韩滉	3 漂亮	3 粗	2 那	12 能够

表7

Noun	文書	ProperNoun	文書	Adj	文書	JJ	文書	Adv	文書	Verb	文書
东西	5	中国	4	一样	5	不同	5	一	5	上去	5
人	5	北京	3	多	5	大	5	一下	5	会	5
关系	5	日本	3	大	5	小	5	不	5	做	5
后面	5	上海	2	好	5	这样	5	为什么	5	出来	5
地方	5	意大利	2	对	5	什么样	4	主要	5	出现	5
意思	5	成都	2	不同	4	传统	4	也	5	到	5
方式	5	美国	2	快	4	好	4	但是	5	包括	5
时候	5	西汉	2	怎么样	4	现代	4	先	5	去	5
时间	5	24K	1	新	4	一定	3	其实	5	叫	5
概念	5	QQ	1	清楚	4	专门	3	再	5	可以	5
表现	5	东晋	1	简单	4	基本	3	刚才	5	可能	5
表达	5	亚洲	1	这样	4	新	3	又	5	在	5
课	5	亚里士多德	1	重要	4	一般	2	可能	5	开始	5
过程	5	伊斯·里格尔	1	难	4	不一样	2	在	5	想	5
里面	5	伊斯坦布尔	1	少	3	主要	2	太	5	找	5
问题	5	伏特加	1	强	3	共同	2	就	5	用	5
上面	4	伦敦	1	快速	3	关键	2	就是	5	看	5
分析	4	俄罗斯	1	慢	3	具体	2	就是说	5	看到	5
位置	4	保道	1	方便	3	动态	2	已经	5	知道	5
其中	4	傅览	1	清晰	3	原始	2	很	5	能	5

ではなく作品解説である。それゆえ他の授業と異なり、作品を評価する語彙が多く現れている。

形容詞(述語用法)には、“好”(すばらしい)(甲ランク)、“美”(うつくしい)(乙ランク)、“棒”(すばらしい：やや口語的表現)(丙ランク)のような1音節語にとどまらず、2音節語“流畅”(流れるようでよどみがない)(ランク外)、“熟练”(技術が熟練されている)(乙ランク)、“优美”(みやびである)(乙ランク)、“漂亮”(きれいだである)(甲ランク)のように作品を評価することばが多く現れている。なお、この談話においても副詞“其实”の出現回数が多いことが見てとれる。

3.6 芸術系教室談話の語彙的特徴(表7)

以上、授業ごとに教室談話に現れた語彙の特徴について見てきたが、ここでは芸術系授業全体について、その教室談話の語彙にどのような特徴があるかについて考察を進める。表7中の「文書」欄に記した数字は、いくつの教室談話で出現した語彙であることを示している。すなわち、「文書」欄に「5」とあれば、「美学」・「広告デザイン(講義)」・「広告デザイン(プレゼンテーション)」・「デジタル絵画」・「模写」の5つすべての教室談話に出現した語彙ということを示している。そうした語彙は芸術系科目の教室談話に現れる特徴的な語彙である可能性が高い。

“概念”(概念)(乙ランク)、“表达”(表現する)(乙ランク)、“表现”(表現)(甲ランク)、“过程”(プロセス)(乙ランク)などが、芸術系教室談話の語彙として特徴的であろう。教材作成においては、学習語彙のランクに留意しながらも、学習者の状況によって教師がカスタマイズすることが求められる。すでにみたように“其实”(実は)はすべての授業において、高頻度で出現する語彙である。日本の中国語教育の現場で広く使用されている辞典のひとつである、小学館の『中日辞典』第3版では“其实”は、「前述の内容から想像される事柄を否定しながら事実を述べる¹⁾」と説明されている。“其实”は談話構築において重要な役割を担う語といえる。また、“就是说”(つまり)もHSK丙ランクの語であるが、先に行った発話を別の言い方で言い換えをすることにより、自らの主張を聞き手にくり返し訴えかけることは、教室談話に限らず日常のコミュニケーションにおいてもよく見られることである。HSKでは初級の学習範囲を超えているとされる“其实”や“就是说”だが、「対話能力」の育成という観点からは、こうした語は使える語彙として初級段階から学習する必要があるだろう。

4 まとめ

中国語による芸術系科目の教室談話において出現する

語彙について考察を行ってきたが、芸術系科目に特徴的な語彙と、対話を円滑に進める上において、早い段階から学習する必要のある語についての理解を深めることができた。語彙、文法、文型は談話の素材にしかすぎないが、素材への吟味なくしては、他者とことばによるやりとりを行い、自他の差異を認めあいながら、新たな価値の創造を行ううえでの基盤となる「対話」を遂行することは難しい。

最後に専門分野の基本語彙を初級段階で扱う一例を示しておこう。上位語として語彙リストには上がってこなかったが、芸術系学生にとって色・形を表す語彙は基本語である。例えば“圆”(丸い)という語を導入するとき、単に日本語訳を提示するだけでなく、その対義語の“方”(四角い)も併せて提示し、「前方後円墳」という誰もが一度は聞いたことのある古墳の形の名称にも“方”が使われていることに気づかせることで、学習者に日本語と中国語の関係を再認識させることができる。さらに“天圆地方”(天は円く地は四角い)という表現にまで言及すると、形を表す語と中国古代の宇宙観との関連を示すことができ、学習者の中国語に対する興味をさらに広げていくことができるであろう。

専門分野と連動した初修外国語教育は、学部毎に編成されたクラスでなければ実践できないというわけではない。学習者個々の求める専門性と関連することばを手がかりとして、外国語を通して学習者間の「対話能力」の育成につなげていくには、むしろ専門分野の異なる学習者が混在したほうがふさわしい。多くの場合、大学教育における初修外国語は教養科目に位置づけられるが、教養は専門の先にあるともいえる。

謝辞

中国の大学における調査にあたって、成都大学の金偉教授、清華大学の張夫也教授、西安美術学院の王珠珠教授をはじめ、上記各大学の先生方に便宜を図っていただき、授業の録音とその研究利用を許可していただいた。この場を借りて、皆さまに深くお礼を申し上げたい。

本稿は、科学研究基盤研究(C)(一般)「専門教育と連動した中国語初級教材の開発」(研究代表者山田真一、JP15K02713、平成27~29年度)の研究成果の一部である。なお、本論文の内容の一部は、日本中国語学会北陸支部例会(平成29年3月18日)において口頭発表を行った。

注釈

*1 「日本の大学生の中国語学習動機づけ—全国6言語アンケート調査に基づく量的分析」(王松・古川

裕・砂岡和子『中国語教育』第14号、103-126頁、中国語教育学会、2016年)。

- *2 前掲論文によると、「内発的動機づけ」とは興味や関心に基づき行動することで、もっとも自己決定度(自律性)が高く、「同一視的調整」とは重要性の認識で、「取り入れ的調整」とはエゴや自尊心が学習動機づけになるものをいう。
- *3 元大阪大学総長の鷺田清一氏(現京都市立芸術大学学長)が、2010年当時大阪大学のホームページ上に開設した学長ビデオメッセージの中で述べていたことば。
- *4 樋口耕一氏が作成したフリーのソフトウェア。KH Coderの詳細については、<http://khc.sourceforge.net/>を参照のこと。
- *5 KH Coderでは中国語の単語分割には Stanford Word Segmenterを、基本形には Stanford POS Tagger が用いられている。例えば、KH Coderでは“对不对”は名詞として処理されるが、そうした場合、前処理において“对不对”を「強制抽出をする語」に指定すれば、TAGとして処理される。
- *6 北京语言大学汉语水平考试中心『HSK中国汉语水平考试词汇大纲汉语8000词词典』、北京语言大学出版社、2000年。
- *7 前掲書前言2頁。8000語で統計的には一般的なコーパスの95パーセントをカバーできるという。
- *8 “微信”(WeChat)は無料のインスタントメッセージングアプリで、中国語版LINEのようなもの。ウィキペディアによると、2011年にサービスが開始された。<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%AE%E4%BF%A1>

引用文献

- 1) 『中日辞典』第3版、1206頁。小学館、2016年。

参考文献

1. 王松・古川裕・砂岡和子「日本の大学生の中国語学習動機づけ—全国6言語アンケート調査に基づく量的分析」、『中国語教育』第14号、中国語教育学会、2016年。
2. CAHE TOHOKU Report 39「東北大学の初修外国語教育」(東北大学高等教育開発推進センター) 2012年。
3. 北京语言大学汉语水平考试中心『HSK中国汉语水平考试词汇大纲汉语8000词词典』、北京语言大学出版社、2000年。
4. 『中日辞典』第3版、小学館、2016年。

